

令和6年度

藍住北小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 教員一人一人の授業力アップを目指し、個人差に対応した指導方法の工夫
- 「主体的・対話的で深い学び」のための教材・教具として、ICTを活用した授業実践について

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 野崎 真紀	委員 校長・総括 後藤 成人
	教頭・総括補佐 村上 功洋
	教務主任 友成 幸恵 特別支援担当 高畠 裕子
	1学年主任 玉井 明子 2学年主任 河野 明穂
	3学年主任 青木 優子 5学年主任 横山 宏枝
	6学年主任 藤本 由香里

校長

後藤 成人

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

【各校の取組状況の把握について】

各学年で話し合いの機会をもつようにするとともに、知識・技能の習得については学期ごとに確認テストを実施する。研究授業の際には、本校の課題となる点について話し合うようにする。

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○「学びタイム」等での継続的な取り組みで、漢字の読み書きや四則計算などについては、ある程度の定着が見られる。 ○課題に対して真面目に取り組む児童が多い。 ●全体的に基礎・基本の定着は向上しつつあるが、個人差が大きい。語彙数が少なく、文章を書く力にも大きな差がある。正しい内容を聞き取ったり、読み取ったりすることが苦手な児童が多い。	①当該学年での基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。 ②語彙数を増やし、日常生活で、自分の考えや思いを言葉を選んで話したり、分かりやすく文章を書いたりできる。 ③これまでに学習してきた内容を他の教科に生かすことができる。	①「学びタイム」を計画的に行い、基礎的・基本的な学習の定着を図る。 ②ノートやワークをチェックする機会を定期的に設けるとともに、ノートの模範を掲示する。 ③スピーチや日記、メモをとる等で話す・聞く・書く活動の機会をとる。 ④低・中学年では少人数担当教員や支援員が、T・Tにより児童のつまずきに対応する。 ⑤中学年以上は、授業交換や専科教員による専科指導を取り入れ、専門性を高めるとともに、児童の興味関心を高める。 ⑥5・6年生の算数科では習熟度別指導を取り入れ、得意な子にとっても苦手な子にとってもそれぞれの習熟度にあった学習環境を整え、力を伸ばす。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の思いを他者に伝えたいという気持ちをもっている児童が多い。ペアやグループ学習では、積極的に自分の思いや考えを発言しやすく、意見の交流ができています。 ●目的や条件に応じて、文章を書いたり要約したりすることや、聞き取ったり話したりする力に課題がある。授業中に発言する児童に偏りがある。また、自分の思いを伝える語彙が少なかったり、自分の考えを分かりやすく発表したりするのが苦手であるため、十分に伝えきれないことがある。	①場に応じた話し方や声の大きさで自分の考えを進んで話すことができる。 ②相手の話を聞き、自分の考えと比べていたりしているところを見つけたりしながら聞くことができる。 ③自分の考えをまとめ、相手に伝えるように根拠をもって説明することができる。	①授業の中で、自分の思いや考えを説明する場面を意図的、計画的に設ける。 ②ペア・グループ活動や話し合い活動を積極的に取り入れ、自分の言葉で考えや思いを伝える場を設定する。 ③ICTを活用し、聞き方や話し方の例を示したり、注目すべき点を確認したりする。 ④ICTや思考ツールを活用し、考える力を育てる指導を工夫する。 ⑤メンター制や校内研修を活用し、経験の浅い教員の指導力を伸ばしていく			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習の初めの準備やチャイム着席などは定着してきている学年が多い。新しく学ぶことに興味をもって意欲的に取り組むことができる。 ●自分から進んで課題を見つけて取り組むことや見通しをもって取り組むことが苦手である。少し難易度が上がると、諦めてしまいがちになったり集中が続かなくなったりする傾向がある。 ●家庭での読書時間が少ない児童も多い。	①次時の学習準備やチャイム着席など、学習に取りかかる基本姿勢が定着している。 ②読書や家庭学習に進んで取り組んでいる。 ③自分から進んで楽しみながら学習に取り組もうとする態度を身に付けている。 ④苦手なことに対して諦めずに粘り強くやり抜くことができる。	①授業準備や机上整理をすませ、チャイムと同時にスムーズに授業を開始できるようにSWPBSを用いて児童の主体性を高め、できている児童を称賛し授業に取り組む態度を学校全体で定着させる。 ②朝の読書、週末の家族読書、教師やPTAによる読み聞かせ等で読書の時間の充実を図る。 ③ICTを活用し、興味関心をもたせ、課題解決のみならず、問題を発見できる力がつくよう意欲を高める。 ④できたことを肯定的に評価し、意欲を高めるとともに、家庭学習の取り組み方を具体的に示し手本となる事例を子どもや家庭に知らせる。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

